

国際探究Ⅰ「教養講座Ⅰ」

(日時) 平成28年5月12日(木) 14:20～16:05
平成28年5月19日(木) 14:45～16:05
平成28年5月26日(木) 14:20～16:05

(場所) 5月12日 本校第一体育館
5月19日、26日 本校第一体育館
選択教室、地歴講義室

(対象) 1年生全員239名

(講師) 5月12日

秋田経済研究所 松渕 秀和 所長
「秋田県経済の現状と課題」

5月19日、26日

秋田経済研究所 工藤 修 事務局長 「農業について」
相沢 陽子 研究員 「食文化と観光について」
佐藤由深子 研究員 「食文化と商業について」

(目的) 基調講演で世界の食糧問題について知った上で、自分たちの足元である郷土秋田の農業や食文化の問題を見つめる。

(内容) 日本や秋田の農業や食文化をめぐる現状と課題を把握する。

(方法) 5月12日

本校第1体育館で講演を聴講する。

5月19日、26日

3つの講座を各場所に分かれて実施。1週あたり1講座ずつ、2つの講座を選択受講する。

(生徒の活動評価) 活動観察、メモ・振り返りシート、質問内容

(指導上のポイントと仕掛け)

講師から事前に配付された資料を熟読させ、秋田県の経済・農業の現状と課題・展望の概要を認識させる。また、資料のポイントを押さえたプリントを配付し、全容を把握させる。

事前に農業・観光・商業から聴講したい分野を選択希望することで、関心のある秋田の事象について見聞を広める。

(講座を振り返って)

今日の講演内容は、秋田県の現状を数値から分析していくものであったので、生徒には多少難解な部分もあったかもしれない。にもかかわらず、必死に資料に目を通す生徒や、率直な疑問を講師にぶつ



ける生徒が多数見られたことは、やはり意欲の高い生徒が多数存在しているからだろう。農業についての講話では、話の端々に興味深い、今後の研究の鍵となり得るキーワードがちりばめられていた。そのキーワードを拾えるか、生かせるかが研究の充実度の鍵となると思う。質問の質は高かったように感じる。講師の先生方から「真面目な生徒が多い」「どの会場も的を射た質問が多く出てきた」とのコメントをいただいた。今後の励みとしたい。

(生徒の振り返りから)

感想(学んだことや考えさせられたこと等)	
①5/12講演	秋田経済研究所 松瀬秀和 所長
今日の講話では具体的な数値によって秋田の現状を知ることができました。秋田は全体的に成長している分野がほとんどなく、経済が低迷していることが、はっきりとわかりました。人口が減少し続け、経済も右肩下がりな秋田は、このまま何もせずには、県として存続できなくなる可能性が現実的にあると思います。一方で、独自の産業で低迷から逃れている地域があったり、全国シェアが1~3位の物があって、再起の可能性は0ではない。これからの秋田がどうなっていくかは、わたしたち次第だとも考えました。	



③5/26講演	(テーマ: 食文化と観光) (会場: 第1体育館)
日本へはアジアからの観光客が多く、近年日本への外国人観光客は増加していることがわかりました。この傾向が続けば良いと思いました。実際に、外国人観光客を増やす為に秋田もインバウンドとして農業体験に積極的に受け入れるなど取り組みをしていることがわかりました。今後も活動を強化し、さらに秋田への観光客を呼び込めれば良いと思いました。気になることは、国内の観光客をどう増やすか方法があまりわからなかったことです。毎日に秋田の魅力を発信することはもちろん大切ですが、日本人にもっと秋田の魅力を伝えることが必要なのではないかと感じました。今回分かったこともふくめ、研究に生かしていきけるようにメモや資料をもう一度じっくり見直したいです。	



2. 考察(教養講座 I ①~③を通じて考えたことや生じた問い等)
私は、秋田を活性化するために、秋田をPRしていく必要があると思った。秋田では、少子高齢化が進み、少子高齢化や人口流出のために、秋田県の消費が減少していると思った。消費が減少すると生産も減少し、不景気の悪循環にあると思った。また、秋田は「日本食」という点でPRしていけばよいと思う。秋田の米「あきたこまち」などを使ってお菓子や「きりたんぽ」を多くの人に知ってもらいたいと思った。そして、秋田は少子高齢化が進み、高齢者向けのサービスの充実を目指して物事に取り組んでいると聞いた。秋田は若者向けのサービスの充実を図ること、秋田の人口流出を止めるとともに、秋田に来る人の人口を増やす対策をする必要があると思う。例えば、千葉のディズニーランド、ディズニーシーや大阪のUSJのような大規模なレジャー施設の建設や、それとともに、ホテルなどを増やすなどといったことが考えられる。しかし、秋田は赤字という現状があるので、まずは「日本食ゲーム」に乗って秋田独特の「日本食」を考えればよいと思う。または、大規模なレジャー施設を「今だけの借金」のように考えてでも造るなどの方法もよいと思う。若者向けの施設を作ることが秋田の現状回復へとつながるのではないかと考えた。